

【成果報告】

現在日本で求められている SDGs 型まちづくりの先行事例として考えられるハウステンボスの初期のまちづくり構想及び、具体的な都市・環境・施設づくりの詳細を明らかにし、認識しなおすとともに、今後の地域活性化と SDGs 実現のまちづくり構想策定及び具体的な施策構築への示唆を導出することを目的とする。

研究方法は、1980-90年代のハウステンボスの構想資料・文献調査、ハウステンボス建設の理想としたオランダの過去と現在の都市計画・推進も併せて調査、同社の取り組みを評価し企業による地域活性化への示唆を得る。

(1) ハウステンボスの当初構想（文献調査）-自然環境保全の街づくり「都市開発・運営」

ハウステンボスは、1985年に計画開始、1988年基盤整備工事着工、1992年開業したが、当初は工場誘致用の埋め立て地だった場所を、オランダの環境保全・都市計画に習い滞在型リゾート（エコシティ）へ転換し開発整備するものであった（池田,1999）。

■まちづくり；環境保全型-①水辺環境の再生、②自然環境の再生、③新たな環境保全インフラ整備、④都市アメニティ整備、⑤環境文化研究所、⑥従業員・地域住民活動

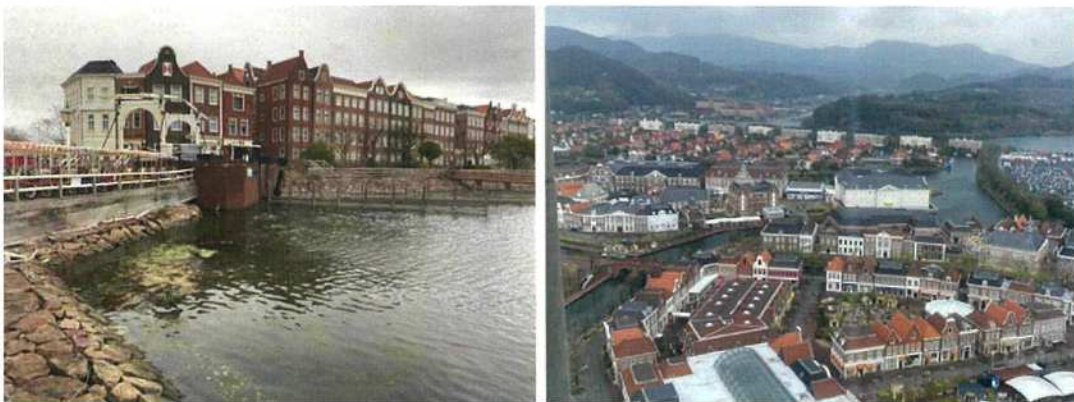
■まち運営；滞在型リゾート都市運営-①まち運営（SCモール型経営）、②エンタメソフト、③宣伝広報PRなど、様々な業種・企業のコンソーシアムにて「都市」として運営
この展開はトヨタの富士山麓 MaaS 都市構想よりもかなり早期で先行する事業であった。

(2) ハウステンボスの現在（現地調査）-ファミリー集客型「テーマパーク運営」

現在のハウステンボスは、旅行会社「HIS」によってテーマパークして経営され、プロモーション強化、旅行動員強化で成果をあげているが、創業者神近義邦氏（1942-2020）の当初の構想である SDGs 型都市運営の理想とは乖離した別物になっている。

(3) 今後のハウステンボスの街づくり対応（考察）

現在の敷地の一部に分譲型別荘や滞在型住居地域が残り、環境保全型都市運営インフラは継続稼働している。この都市運営インフラを活用し、当敷地さらに周辺地域も範囲とした SDGs 型まちづくりを長崎県・佐世保市とともに取り組むことは可能と考える。



（出所）筆者撮影（2021年3月）

参考文献：池田武邦（1999）『ハウステンボス・エコシティへの挑戦』かもがわ出版。